

本書を熟読の上、大切に保管してください

N8151-25B

内蔵3.5" MO

ユーザーズガイド

まえがき

本書は、N8151-25B 内蔵3.5型MO装置(以下「本製品」と呼びます)を正しく、安全に設置・使用するための手引きです。本製品を取り扱う前にお読みください。また、本製品を使用する上でわからないこと、不具合が起きたときにもぜひご利用ください。

本書の構成と読み方

本製品を取り付ける装置(以下「本体装置」と呼びます)の取り扱いについての説明は、本体装置に添付の説明書を参照してください。

本製品を取り扱う前に2ページの「安全上のご注意」、4ページの「警告ラベルについて」、5ページに示す「使用上のご注意」を必ずお読みください。

本書は4つの章と付録(A～C)から構成されています。本製品を購入されてから初めて取り扱う場合は第1章から順に読んでください。本製品の取り扱い方法を知りたい場合は、第2章から読んでください。また、本製品に異常が起きた場合は第4章を参照してください。

次にそれぞれの章で説明される内容について簡単に説明します。

- | | |
|----------------------|---|
| 「第1章 初めてお使いになるとき」 | 本製品の特長と本体装置への取り付け方法を順を追って説明します。 |
| 「第2章 日常の使用方法」 | 光磁気ディスクを本製品にセットする方法、および取り出し方やデータの取り扱いについて説明します。 |
| 「第3章 クリーニング・本製品の輸送」 | 本製品および光磁気ディスクのクリーニング方法について説明します。また、本製品を輸送するときの手順についても説明します。 |
| 「第4章 障害処理チャート」 | 本製品が思うように動かないときは本製品の故障を疑う前にまずここで示すチャートを参照してください。 |
| 「付録A 仕様」 | 本製品の仕様を記載しています。 |
| 「付録B 光磁気ディスクについて」 | 光磁気ディスクの取り扱い方法について説明します。 |
| 「付録C フォーマットに関する注意事項」 | 光磁気ディスクをフォーマットするときの注意事項を示します。 |

使用上のご注意 ～必ずお読みください～

本製品を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

安全にかかわる表示について

本書にはどこが危険か、どのような危険に遭うか、どうすれば危険を避けられるかなどについて説明されています。

本書では、危険の程度を表す言葉として、「警告」と「注意」という用語を使用しています。それぞれの用語は次のような意味を持つものとして定義されています。



警告




人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。








注意

火傷やケガなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。

| | | |
|---|--------------|---|
|  | 注意の喚起 | この記号は、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 |
|  | 行為の禁止 | この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 |
|  | 行為の強制 | この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 |

<本書での表示例>



| 注意を促す記号 | 危険に対する注意の内容 | 危険の程度を表す用語 |
|---|---|--|
|  |  |  注意 |
|  |  | 本製品内に水や異物を入れない 本製品内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ本体装置の電源をOFFにして電源コードをコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。 |

本書で使用する記号とその内容



注意の喚起

| | | | |
|---|---------------------------|---|--------------------------|
|  | 感電などのおそれがあることを示します。 |  | 発煙または発火のおそれがあることを示します。 |
|  | 指などがはさまれるおそれがあることを示します。 |  | 高温により傷害を負うおそれがあることを示します。 |
|  | レーザー光による失明のおそれがあることを示します。 |  | 特定しない一般的な注意・警告を示します。 |

行為の禁止

| | | | |
|---|--------------------------------------|---|-------------------|
|  | 本製品を分解・修理・改造しないでください。感電や火災のおそれがあります。 |  | 特定しない一般的な禁止を示します。 |
|---|--------------------------------------|---|-------------------|





行為の禁止



| | | | |
|--|--|--|--|
|  | 本製品の電源プラグをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。 |  | 特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。 |
|--|--|--|--|

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解し、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全に関わる表示について』の説明を参照してください。

全般的な注意事項

|  警告 | |
|---|---|
|  | <p>人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない</p> <p>本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みやこれらの機器の制御などを目的とした使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用した結果、人身事故、財産損害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。</p> |
|  | <p>煙や異臭、異音がしたまま使用しない</p> <p>万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本体装置の電源をOFFにして電源コードをコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。</p> |
|  | <p>針金や金属片を差し込まない</p> <p>通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電の危険があります。</p> |

|  注意 | |
|---|---|
|  | <p>本製品内に水や異物を入れない</p> <p>本製品内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐ本体装置の電源をOFFにして電源コードをコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡ください。</p> |

電源・電源コードに関する注意事項



ぬれた手でDCケーブルを持たない

ぬれた手でDCケーブルの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺装置との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードがコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。



中途半端に差し込まない

DCケーブルはしっかりと差し込んでください。中途半端に差し込むと接触不良のため発熱し、火災の原因となることがあります。また差し込み部にはこりがたまり、水滴などが付くと発熱し、火災の原因となるおそれがあります。



指定以外の接続をしない

DCケーブルの接続や配線は本書の説明に従って正しく行ってください。指定以外の接続や配線は火災や感電の原因となるおそれがあります。



破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れていたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。



指定以外のケーブルを使用しない

本体装置と接続するケーブルは弊社指定のものを使用し、接続先をよく確認してください。指定以外のケーブルを使用したり、指示とは異なる接続のまま使用したりすると火災を引き起こすおそれがあります。

! 注意



通気孔をふさがない

本製品の前面にある通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、誤動作の原因となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。



プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

インタフェースケーブルの取り付け/取り外しは本体装置の電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。



指定以外のインタフェースケーブルを使用しない

インタフェースケーブルは、弊社が指定するものを使用し、接続する製品やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。

また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。

- 破損したケーブルコネクタを使用しない。
- ケーブルを踏まない。
- ケーブルの上にものを載せない。
- ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。
- 破損したケーブルを使用しない。



腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない

本製品および本体装置を腐食性ガス(二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど)の存在する環境に設置し、使用しないでください。また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分(塩化ナトリウムや硫黄など)や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。内部のプリント板が腐食し、故障および発煙・発火の原因となるおそれがあります。

もしご使用の環境で上記の疑いがある場合は、販売店または保守サービス会社にご相談ください。

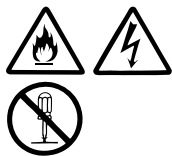


高温注意

本体装置の電源をOFFにした直後は、内蔵型のハードディスクドライブなどをはじめ本体装置内部の部品が高温になっています。十分に冷めたことを確認してから取り付け/取り外しを行ってください。

お手入れに関する注意事項

警告



自分で分解・修理・改造はしない

本製品の分解や修理・改造は絶対にしないでください。本製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

本製品でお客様が行える分解は次の作業のみです。次に記述する以外の分解は絶対にしないでください。

- ブラケットの取り外し/取り付け
- DCケーブル・インタフェースケーブルの取り付け/取り外し



プラグを差し込んだまま取り扱わない

お手入れは、本体装置の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜き、本製品のDCケーブルを抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま本製品内の部品に触ると感電するおそれがあります。



本製品の内部をのぞかない

本製品はレーザーを使用しています。電源がONになっているときに内部をのぞいたり、鏡などを差し込んだりしないでください。万一、レーザー光が目に入ると失明するおそれがあります(レーザー光は目に見えません)。






注意



中途半端に取り付けない

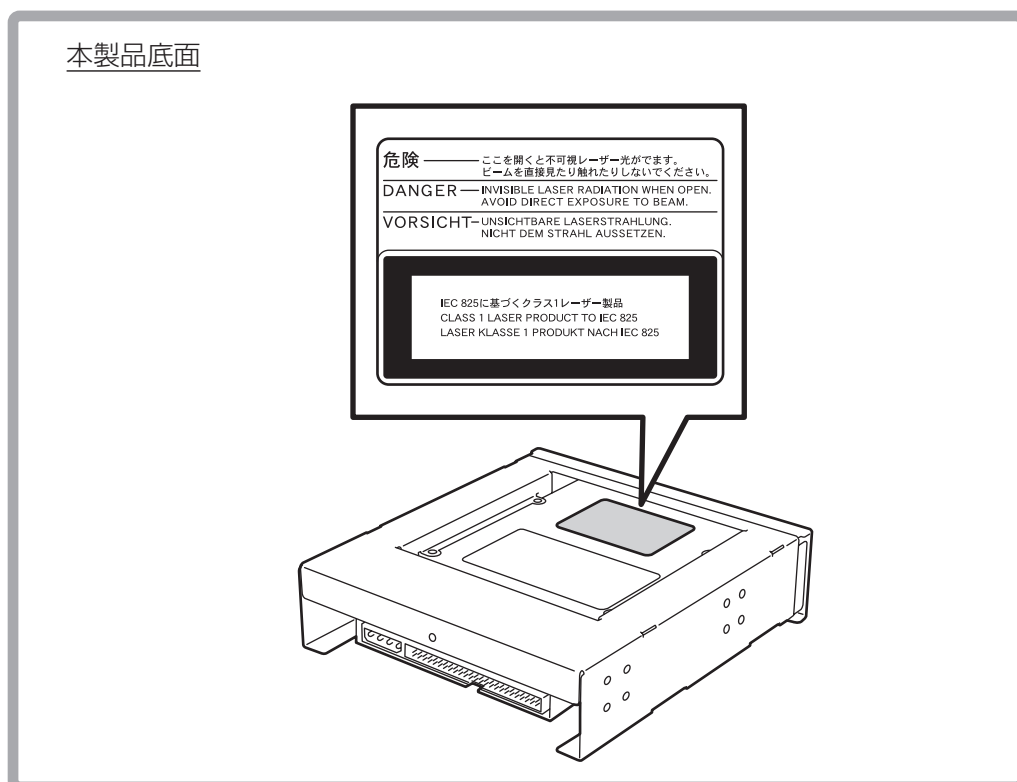
DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。

運用中の注意事項

|  注意 | |
|---|--|
|  | カートリッジ挿入口に手を入れない カートリッジ挿入口に手を入れないでください。手をはさまれたり、巻き込まれたりしてけがをするおそれがあります。 |
|  | 雷がなったら触らない 雷が鳴りだしたら、DCケーブルに触れないでください。感電の原因となります。 |
|  | ペットを近づけない 本製品にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が本製品内部に入って火災や感電の原因となります。 |
|  | 近くで携帯電話やPHS、ポケットベルを使わない 本製品のそばでは携帯電話やPHS、ポケットベルの電源をOFFにしておいてください。電波による誤動作の原因となります。 |

警告ラベルについて

本製品内の危険性を秘める部品やその周辺には警告ラベルが貼り付けられています。これは本製品を操作する際、考えられる危険性を常にお客様に意識していただくためのものです(ラベルをはがしたり、汚したりしないでください)。もしこのラベルが貼り付けられていない、はがれかかっている、汚れているなどして判読できないときは販売店にご連絡ください。本製品に貼り付けられているラベルには以下の警告文が表記されています。



本製品を正しく使用するために

本製品を使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して、本製品を使用した場合、本製品または資産(データやその他の装置)が破壊されるおそれがありますので必ず守ってください。

- 本製品が動作している間は電源をOFFにしないでください。本製品の故障の原因となったり、記録したデータを失ったりすることがあります。
- 光磁気ディスクの挿入/取り出しは、本製品が光磁気ディスクの挿入/取り出しを行える状態になっていることを確認してから行ってください。無理やり光磁気ディスクを挿入したり、取り出したりすると、本製品および光磁気ディスクが破損することがあります。
- 光磁気ディスクはシステムの起動後に挿入してください。また、取り出しはシステムを終了する前に行ってください。光磁気ディスクを挿入したまま、システムを起動したり、終了したりするとデータが壊れるおそれがあります。
- 光磁気ディスク以外のものを本製品に挿入しないでください。本製品の故障の原因となります。特に光磁気ディスクをケースから取り出すときに、光磁気ディスクの説明書やラベルなどがくっついていることがありますので注意してください。
- 定期的の本製品のリード/ライトヘッドを清掃してください(32ページ参照)。本製品を長期間使用すると、リード/ライトヘッドが汚れてくる場合があります。
- 長期間使用している光磁気ディスクは、定期的に「光磁気ディスククリーナ」を使ってディスクのデータ面をクリーニングすることをお勧めします(34ページ参照)。

また、リード/ライトエラーを起こした光磁気ディスクも「光磁気ディスククリーナ」を使ってディスクのデータ面のクリーニングをお試しくささい(34ページ参照)。

保証について

本製品には「保証書」が添付されています。「保証書」は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容をご確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障した場合には、「保証書」の記載内容に基づき、無償修理致します。保証期間終了後の修理については、お買い求めの販売店または最寄りのNEC保守サービス会社にご相談ください。

製品寿命について

本製品の製品寿命は5年です。

本製品・消耗品の廃棄について

本製品の廃棄または、使用できなくなった光磁気ディスクやクリーニングディスクの廃棄については各自治体の廃棄方法に従ってください。

第三者への譲渡について

本製品または、本製品に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

- **本製品について**

本製品を第三者へ譲渡(または売却)する場合には、本書を一緒にお渡しください。

- **その他の付属品について**

その他の付属品もセットアップをするときに必要となりますので一緒にお渡しください。

ディスク内のデータについて

使用していたディスクに保存されている大切なデータ(例えば顧客情報や企業の経理情報など)が第三者へ漏洩することのないようお客様の責任において確実に処分してください。

このようなトラブルを回避するために使用しているバックアップソフトなどでデータを完全に消去し、確実にデータを処分することを強くお勧めします。

なお、データの処分をしないまま、譲渡(または売却)し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

電波障害自主規制について

注 意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

商標について

本書に記載されている会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

レーザー安全基準について

本製品はレーザーに関する安全基準(EN60825-1)クラス1に適合しています。


海外でのご使用について

この製品は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この製品を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 本製品を第三者へ譲渡・売却する際は必ず本書も添えてください。

目次

| | |
|---|----|
| まえがき | 1 |
| 本書の構成と読み方 | 1 |
|  使用上のご注意 ～必ずお読みください～ | 2 |
| 安全にかかわる表示について | 2 |
| 本書で使用する記号とその内容 | 3 |
| 安全上のご注意 | 4 |
| 全般的な注意事項 | 4 |
| 電源・電源コードに関する注意事項 | 5 |
| 設置・本製品の移動・保管・接続に関する注意事項 | 6 |
| お手入れに関する注意事項 | 7 |
| 運用中の注意事項 | 8 |
| 警告ラベルについて | 8 |
| 本製品を正しく使用するために | 9 |
| 保証について | 9 |
| 製品寿命について | 9 |
| 本製品・消耗品の廃棄について | 9 |
| 第三者への譲渡について | 10 |

第1章 初めてお使いになるとき

～箱を開けてからお使いになれるまで～

| | |
|--------------------|----|
| 本製品の特長 | 13 |
| 箱の中身 | 14 |
| 各部の名称 | 15 |
| 本製品前面(フロントパネル) | 15 |
| 本製品背面 | 15 |
| 本製品上面 | 16 |
| 取り付け | 17 |
| ステップ1 SCSI IDの設定 | 17 |
| ステップ2 デバイスベイへの取り付け | 18 |
| ステップ3 電源ケーブルの接続 | 24 |
| ステップ4 SCSIケーブルの接続 | 24 |
| ステップ5 BIOSの設定 | 25 |

第2章 日常の使用方法

| | |
|-----------------------|----|
| 電源のON/OFF | 26 |
| イジェクトスイッチとBUSYランプについて | 26 |
| 光磁気ディスクのセット | 27 |
| 光磁気ディスクのイジェクト | 28 |
| 光磁気ディスクの手動イジェクト | 29 |

取り扱い上の注意

| | |
|----------------|----|
| ～大切なデータを守るために～ | 30 |
| データのバックアップ | 30 |
| ディスクのライトプロテクト | 30 |
| 日常の保守(クリーニング) | 31 |
| オプションデバイスの活用 | 31 |

第3章 クリーニング・本製品の輸送

| | |
|----------------|----|
| 本製品のクリーニング | 32 |
| 本製品のクリーニング | 32 |
| ヘッドのクリーニング | 32 |
| 光磁気ディスクのクリーニング | 34 |
| 本製品の移動・輸送について | 34 |

第4章 障害処理チャート

付録

| | |
|------------------|----|
| A 仕様 | 38 |
| B 光磁気ディスクについて | 39 |
| C フォーマットに関する注意事項 | 41 |

第1章 初めてお使いになるとき

～箱を開けてからお使いになれるまで～

本製品を初めてお使いになる場合は、この章からお読みください。
ここでは、本製品の特長や、梱包箱を開けてから本製品をご使用できるようにするまでの作業を順を追って説明します。

本製品の特長

本製品は、サーバ機器などのファイルシステム用に開発された内蔵型記憶装置で、中位から最上位までのコンピュータシステムで使用するために設計された、高性能光磁気ディスクドライブユニットです。

- **SCSI-2インタフェース対応**

本製品は、SCSI-2 (Small Computer System Interface - 2) の仕様を採用した内蔵型3.5型光磁気ドライブユニットです。シングルエンドの仕様に準拠しています。

- **3つの容量のディスクに対応**

本製品は3.5型カートリッジ型で、ISO規格に準拠した128MB、230MB、640MBの記憶容量を持つ光磁気ディスクへの読み込み(リード)／書き込み(ライト)ができます。

- **ダイレクトオーバーライト媒体サポート**

本製品はISO規格に準拠した640MB媒体のイレース動作なしの光変調ダイレクトオーバーライト媒体が使用できます。

- **高速データ転送**

本製品は高速でデータをバックアップできます。本製品は2MBのデータバッファを有し、本製品内で最大4.0MB／秒の高速データ転送を実現します。

- **パワーセーブモード**

シーク動作が行われない状態が30分間続いた場合、スピンドルモータを停止し、電力を低く抑えることができます。

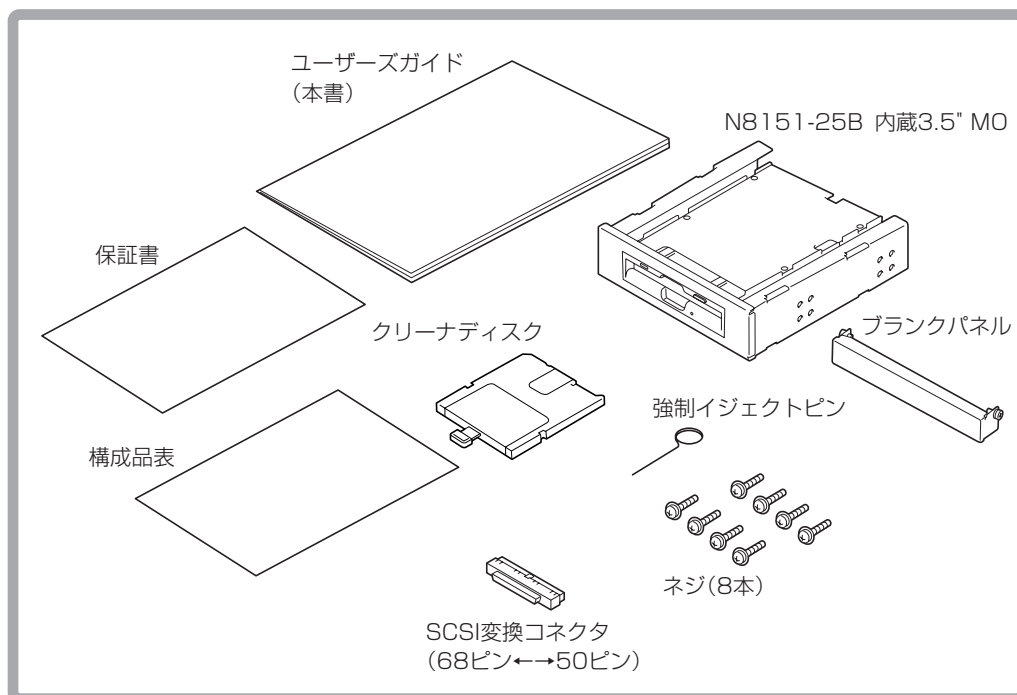
- **互換性**

N8551-01/01A/23/25、N8151-25/25Aで使用していた光磁気ディスクをそのまま使用することができます。

本製品、および使用するソフトウェアについて不明な点がございましたら、お買い上げの販売店へご相談ください。

箱の中身

梱包箱を開けて次のものがすべてそろっていることを確認し、それぞれの点検を行ってください。万一、足りないものや損傷しているものがある場合には、販売店に連絡してください。



- 本製品を譲渡する場合には、本書を併せて譲渡してください。
- 箱と緩衝材は本製品の移動時や保管時に使用しますので大切に保管しておいてください。
- 本製品には、データ用光磁気ディスクは含まれていません。販売店で別途購入してください。
- 『保証書』は、販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障した場合は、『保証書』の記載内容に基づき無料修理いたします。

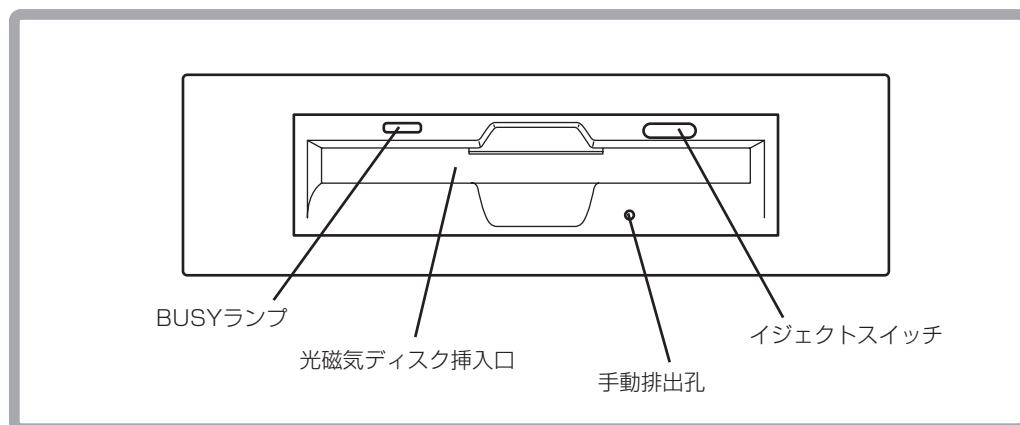
各部の名称

本製品の設置や取り扱い時に使用する部品の名前とその位置を示します。

本製品前面(フロントパネル)

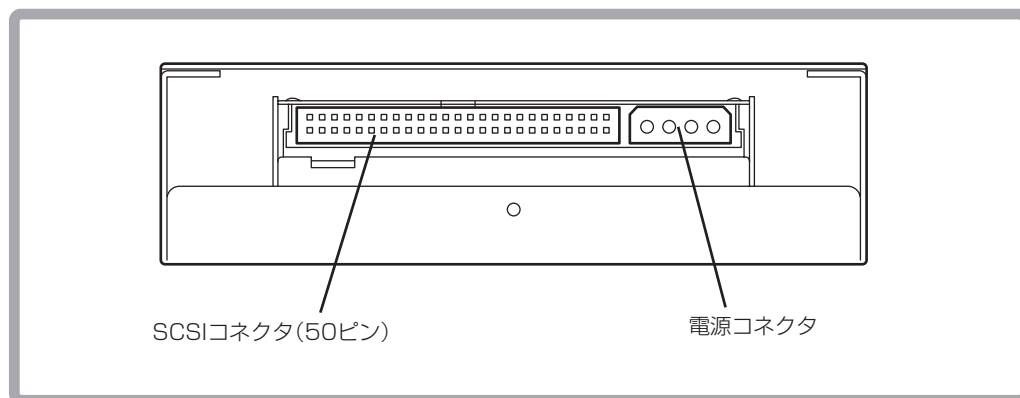
本製品の前面にある操作盤(「フロントパネル」と呼ぶ)には、本製品を操作するためのボタンや本製品の状態を知らせるランプなどがあります。

フロントパネルのボタンやランプについての詳細は26ページを参照してください。



本製品背面

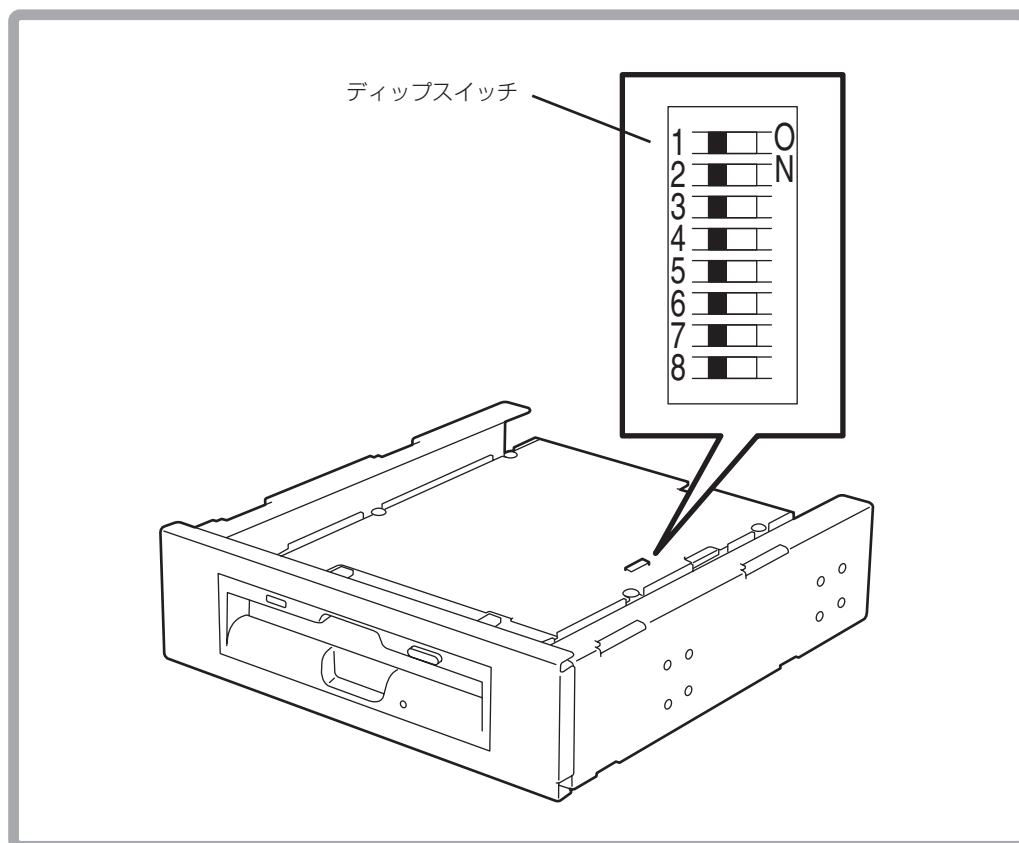
本製品の背面には、電源ケーブルやSCSIコネクタがあります。



本製品上面

本製品の上面には、SCSI ID設定用ディップスイッチがあります。

SCSI IDの設定を行うスイッチ(スイッチ番号6~8)以外のスイッチは出荷時のままの設定にしておいてください。設定を変更すると、誤動作や故障の原因となります。



| スイッチ番号 | 機能 | 出荷時の設定 |
|--------|------------|--------|
| 1 | 工場試験設定 | OFF |
| 2 | SCSIリセット設定 | OFF |
| 3 | SCAM設定 | OFF |
| 4 | ライトキャッシュ設定 | OFF |
| 5 | 内蔵ターミネータ設定 | OFF |
| 6 | SCSI ID | OFF |
| 7 | | OFF |
| 8 | | OFF |

取り付け

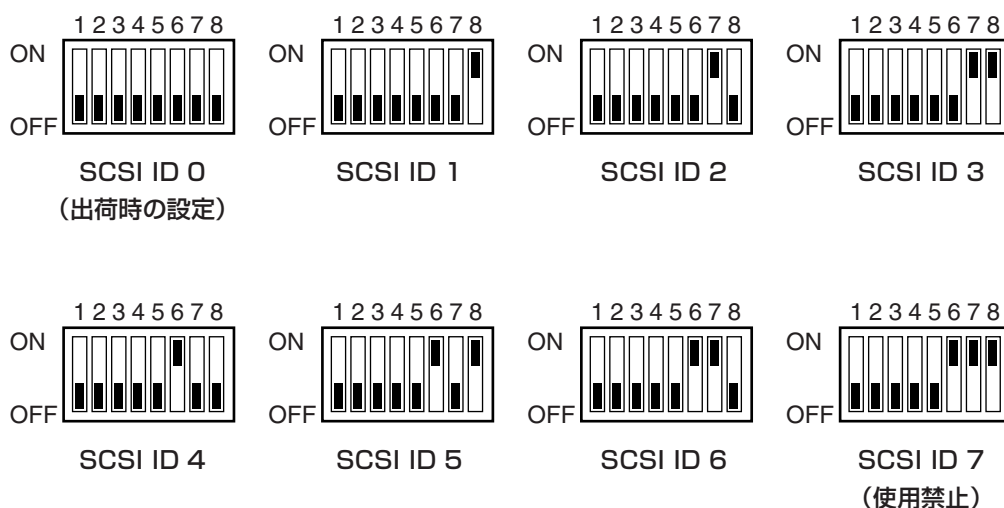
本製品は、本体装置の3.5インチおよび5.25インチデバイスベイ、またはデバイス増設ユニットの5.25インチデバイスベイに取り付けることができます。取り付け順序は次のとおりです。



ステップ1 SCSI IDの設定

本製品を本体装置のデバイスベイに取り付ける前に、本製品のSCSI IDが本製品と同一SCSIバス上に接続される他のSCSI機器と重複していないことを確認してください。(本製品は工場出荷時SCSI ID 0に設定されています。)

本製品のSCSI IDは、上面にあるディップスイッチ(スイッチ番号6~8)を使って変更します。3つのスイッチのON/OFFの組み合わせとSCSI IDは次のとおりです。



ステップ2 デバイスベイへの取り付け

本製品は5.25インチデバイスベイと3.5インチデバイスベイのどちらにも取り付けることができます。それぞれのデバイスベイへの取り付け手順について説明します。

⚠ 注意



電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺装置との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードがコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

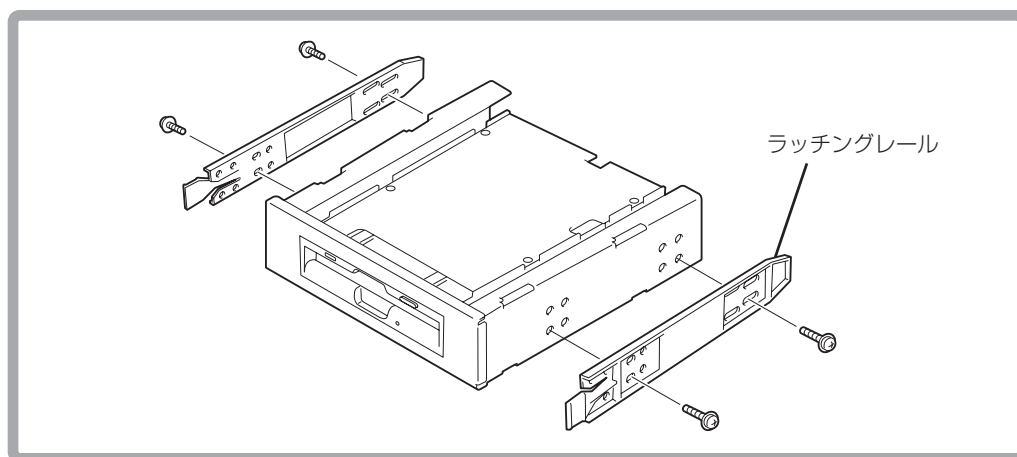
- 本体装置によっては、本製品を縦置きにして取り付けることができる場合があります。本製品を取り付ける向きについては、本体装置に添付の説明書を参照してください。
- デバイス増設ユニットへの取り付けについては、デバイス増設ユニットの説明書を参照してください。

5.25インチデバイスベイへの取り付け

ここでは5.25インチデバイスベイを持つ本体装置への取り付けについて説明します。

- 1 本製品をじょうぶで平らな場所に置き、本体装置に添付のラッチングレールを本製品に添付のネジ4本で固定する。

本体装置への取り付けにラッチングレールを使用せず、本製品を本体装置にネジで直付けする場合は、本手順は不要ですので手順2に進んでください。



- 本製品のフロントパネルが本体装置に搭載済みの他のファイルデバイスのフロントパネルと同じ位置になるように、ラッチングレールの取り付け位置を調節してから本製品を固定してください。
- ネジは本製品に添付のネジを使用してください。

- 2 本体装置の電源スイッチをOFFにして、電源コードをコンセントから抜く。
- 3 本体装置のカバー類を取り外す(詳しくは本体装置に添付の説明書を参照してください)。
- 4 ラッチングレールを本体装置にネジ留めする。

本体装置によっては、取り付けにラッチングレールを使用しないものもあります。この場合は、本体装置に本製品をネジで直付けするため、この手順は不要ですので手順5に進んでください。

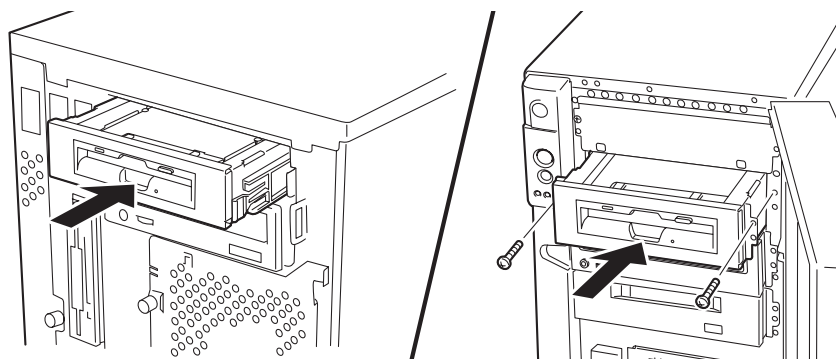
- 5 イジェクトスイッチが上になるように本製品を5.25インチデバイスベイに取り付ける。

本体装置に本製品をラッチングレールで取り付ける場合、ラッチングレールで本製品をロックできるものとロックできないものがあります。

ロックできる場合は、「カチッ」という音がするまで本製品をゆっくりと押し込んでください。ロックできない場合は、ネジで本製品を固定してください。

本体装置に本製品をネジで直付けする場合は、本製品の側面をネジで固定してください。取り付け方法の詳細については、取り付ける本体装置に添付の説明書を参照してください。

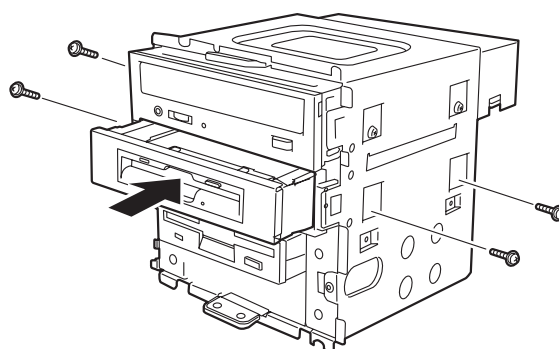
ラッチングレールを使用の場合



ロックできる場合

ロックできない場合

ネジで直付けの場合

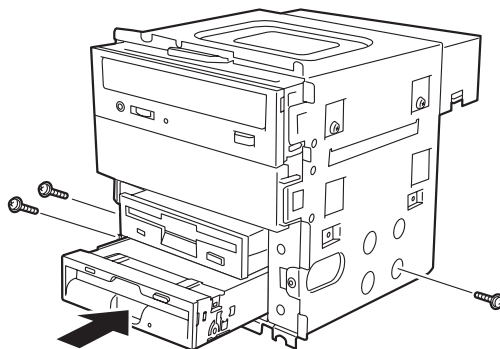


3.5インチデバイスベイへの取り付け

ここでは高さ1.6インチの3.5インチデバイスベイを持つ本体装置への取り付けについて説明します。

高さ1インチの3.5インチデバイスベイにネジで直付けする場合は、以下に示す手順1を行った後、下図を参照して、本製品をネジで固定してください(ネジの本数は本体装置によって異なります)。取り付け方法の詳細については本体装置に添付の説明書を参照してください。

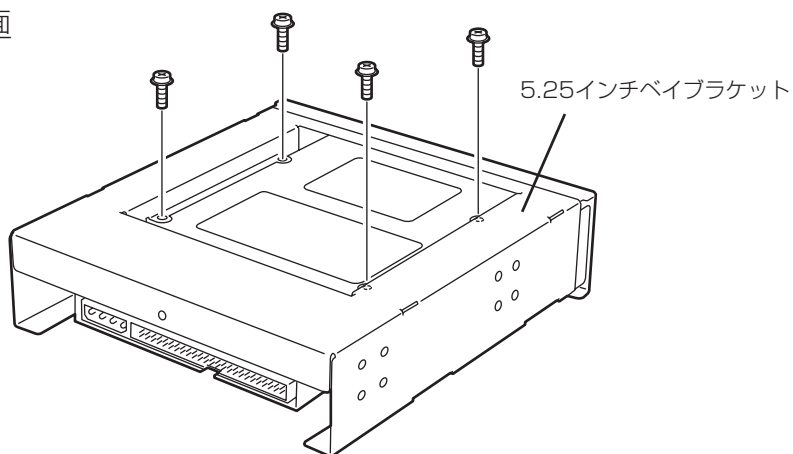
ネジ3本(左側2本、右側1本)の場合



- 1 本製品と5.25インチベイブラケットを固定している本製品底面のネジ4本を外し、本製品を5.25インチベイブラケットから取り外す。

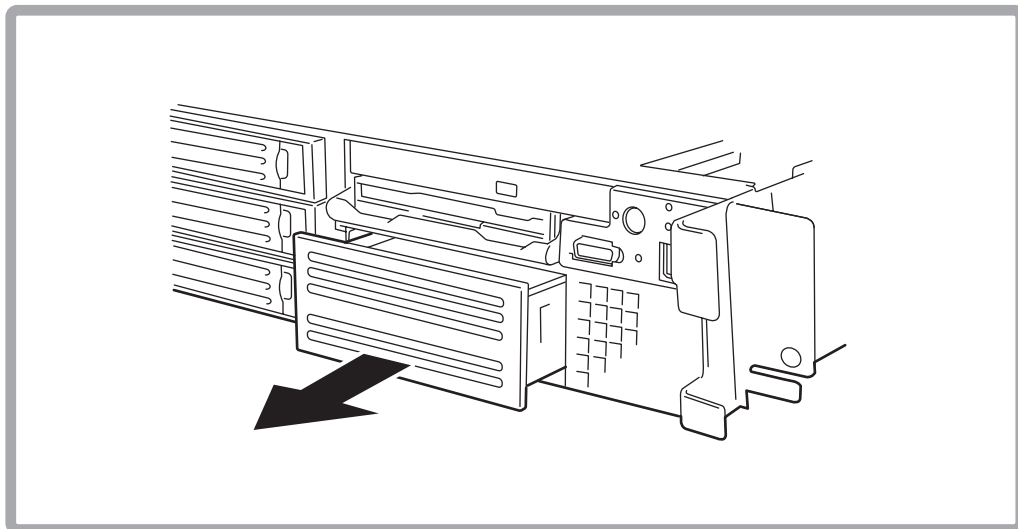
取り外す際に、本製品を落下させないように注意してください。

本製品底面

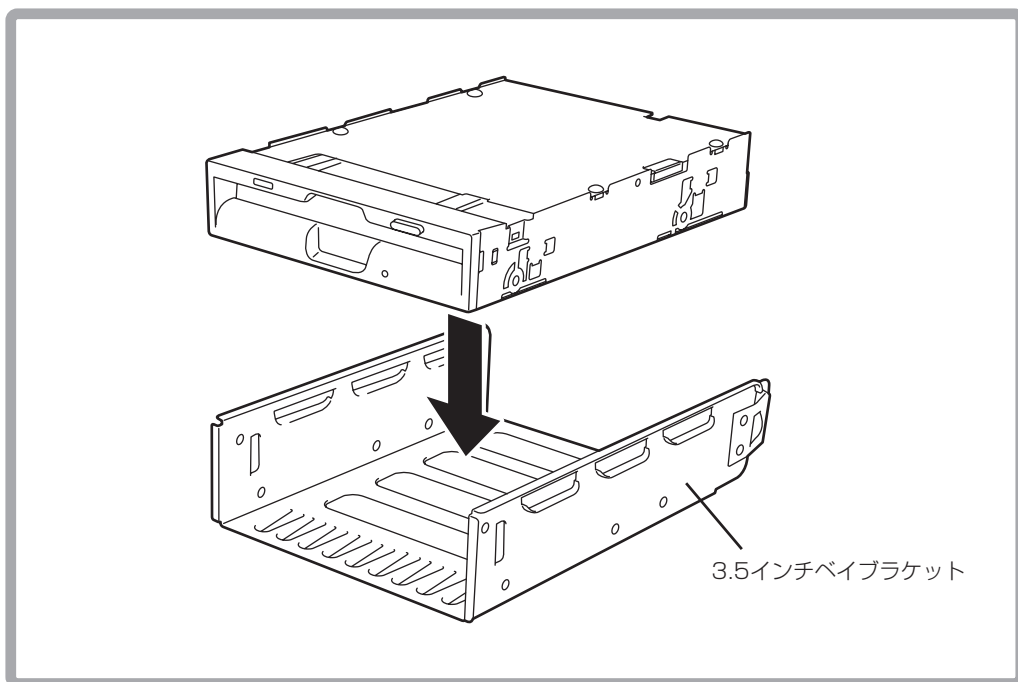


- 2 本体装置の電源スイッチをOFFにして、電源コードをコンセントから抜く。

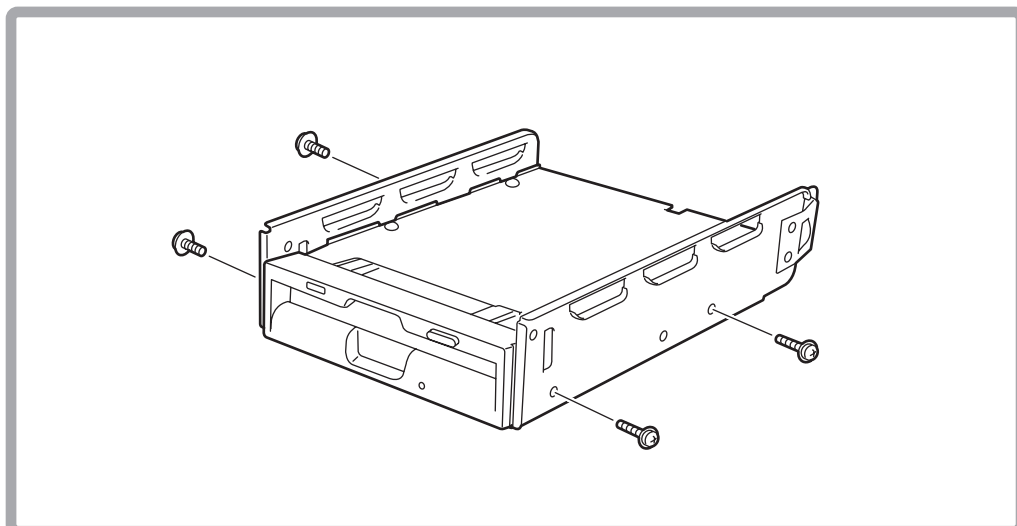
- 3** 本体装置から3.5インチベイブラケットを引き出し、フロントパネルを取り外す。
3.5インチベイブラケットの取り外し方法は、本体装置に添付の説明書を参照してください。



- 4** 3.5インチベイブラケットに本製品を取り付ける。

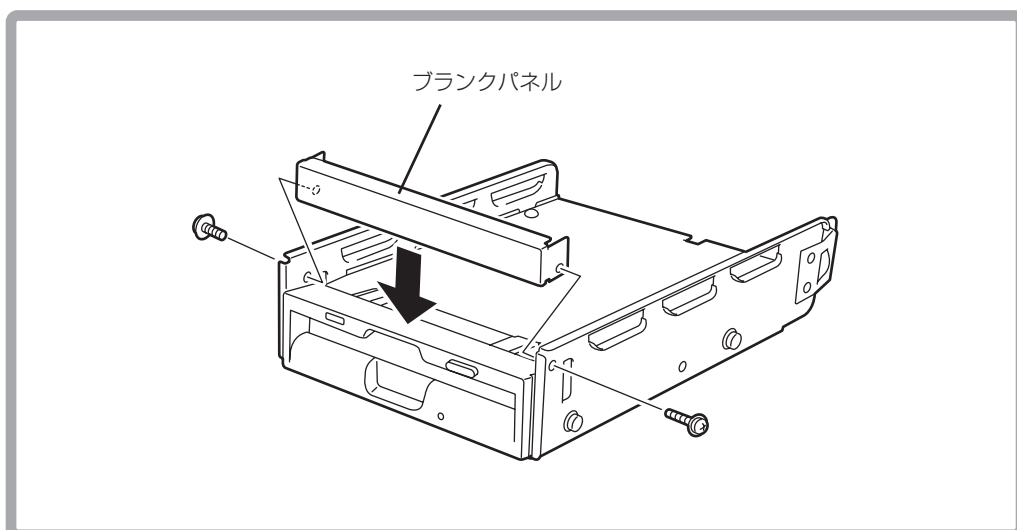


- 5 本製品の側面を3.5インチベイブラケットにネジ4本で固定する。



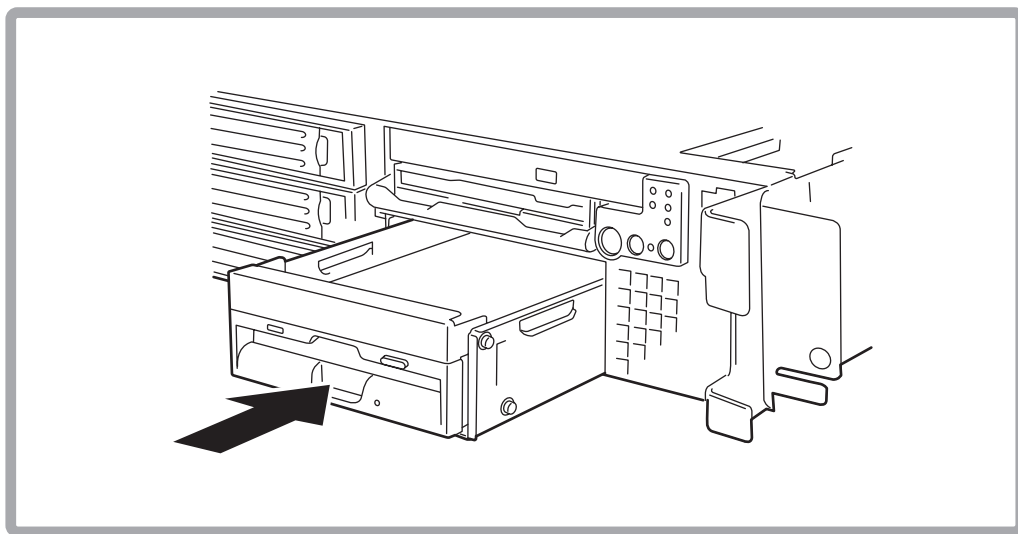
- 6 添付のblankパネルを3.5インチベイブラケットに取り付ける。

blankパネルの両端を3.5インチベイブラケットに、本製品に添付のネジ2本で固定します。



- 7 本製品およびブラックパネルを取り付けた3.5インチベイブラケットを本体装置に取り付ける。

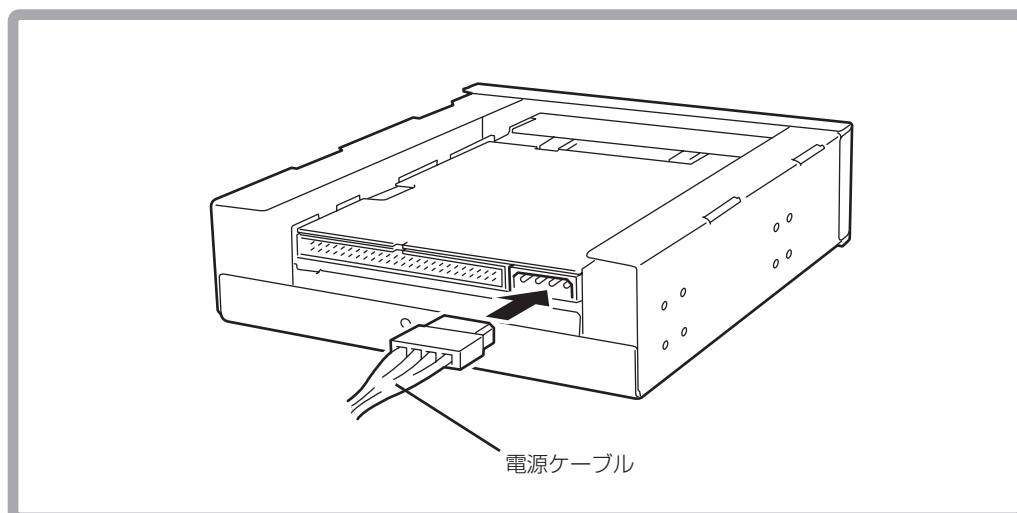
3.5インチベイブラケットを「カチッ」という音がしてロックされるまでゆっくり押しつけてください。



ステップ3 電源ケーブルの接続

取り付けた本体装置の電源ユニットから出ている電源ケーブルから未使用のケーブルを本製品の背面にある電源コネクタに差し込みます。

本製品に接続できる電源ケーブルについては、本体装置の説明書を参照してください。



ステップ4 SCSIケーブルの接続

本製品と本体装置をSCSIケーブルで接続する方法について説明します。

注意

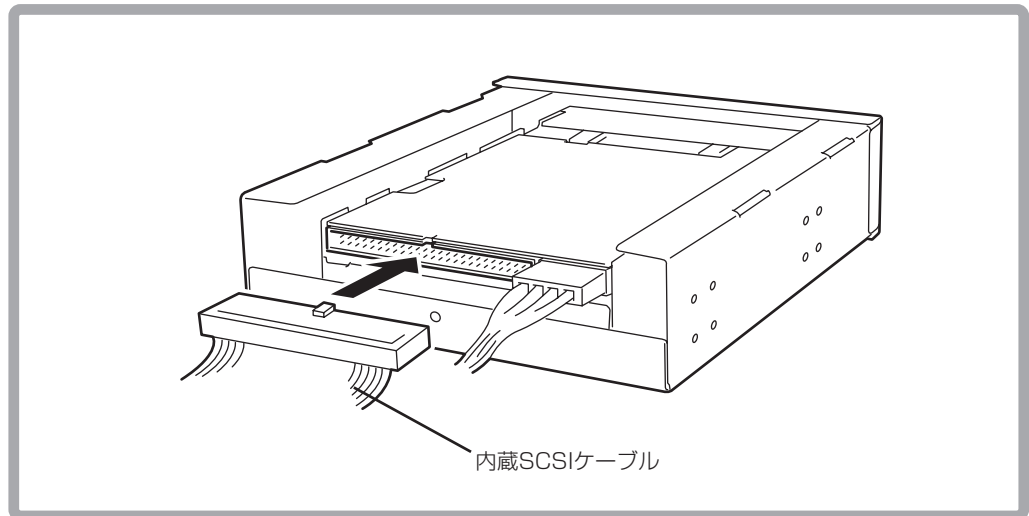


破損したケーブルを使用しない

ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れていたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。

-
- 本製品の接続に使用するSCSIケーブルは、取り付けた本体装置の内部用SCSIケーブルを使用してください。
 - 本体装置にSCSI変換コネクタ(68ピン←→50ピン)が添付されていない場合は本製品に添付のSCSI変換コネクタを使用してください。
 - 取り付けた本体装置のモデルによっては、接続順序が決められているものもあります。詳しくは、取り付けた本体装置に添付の説明書を参照してください。
-

本製品のSCSIコネクタと本体装置内の内蔵用SCSIコネクタ、またはオプションのSCSIコントローラのSCSIコネクタをSCSIケーブルで接続します。本製品のSCSIコネクタは背面にあります。



本製品の終端抵抗は、「OFF」に設定されています。この設定を変更することはできません。SCSIケーブルを接続するときは、本製品をSCSIケーブルの途中に接続してください。また、SCSIケーブル接続で最遠端に位置する装置のコネクタ(またはSCSIケーブルのコネクタ)に終端コネクタを取り付けるか、最遠端に位置する装置の内部設定を「終端抵抗ON」に設定してください。

ステップ5 BIOSの設定

本製品を接続したSCSIコントローラのBIOSの設定を行います。本体装置、またはSCSIコントローラに添付の説明書を参照して、必要に応じて変更してください。なお、取り付けた本体装置、または接続したSCSIコントローラにより設定項目が異なる場合があります。

推奨値

- SCSIデータ幅 8bit
- 転送速度 20MB/秒
- Send Start Unit Command Disable

第2章 日常の使用方法

ここでは、本製品を日常お使いになるときの取り扱い方法について説明します。光磁気ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については39ページをご覧ください。

電源のON/OFF

本製品への電源は、本体装置に内蔵の電源ユニットから供給されています。本体装置の電源をONにすれば、自動的に本製品の電源もONになります。また、本体装置の電源をOFFにすれば、本製品の電源もOFFになります。

電源のON/OFFの状態については、本体装置のPOWERランプで確認してください。

- 本体装置の電源のON/OFFを必要以上に繰り返さないでください。本製品および本体装置や接続している他の機器の誤動作や故障の原因となります。
- 本製品前面にあるイジェクトスイッチを押したまま、本体装置の電源をONにしないでください。本製品の内部設定が変更され、本製品および本体装置や接続している他の機器の誤動作や故障の原因となります。
- 本製品前面にあるBUSYランプが点灯している間は電源をOFFにしないでください。光磁気ディスク上のデータの一部、またはすべてが失われることがあります。

イジェクトスイッチとBUSYランプについて

本製品前面のフロントパネルには、イジェクトスイッチとBUSYランプがあります。

イジェクトスイッチは、本製品にセットした光磁気ディスクをイジェクト(排出)するときに押します。ただし、本体装置によってイジェクトを禁止されているときは、このスイッチを押しても光磁気ディスクはイジェクトされません。

- FATでフォーマットされた光磁気ディスクの場合、ファイルの使用中はOSによりロックされ、ファイルをクローズしてから約10秒後にOSによりロックが解除されます。その後、光磁気ディスクをイジェクトできます。
- NTFSでフォーマットされた光磁気ディスクの場合、光磁気ディスクはOSによりロックされます。エクスプローラ上で本製品を選択して右クリックし、「取り出し」を選択することにより、光磁気ディスクをソフトイジェクトできます。
- Windows 2000/XP環境下では、必ずソフトイジェクトにより光磁気ディスクを取り出してください。データ保存中にイジェクトボタンを押してしまうと光磁気ディスクが取り出され、正しくデータが保存されない場合があります。
- BUSYランプが点灯している間はイジェクトボタンを押さないでください。

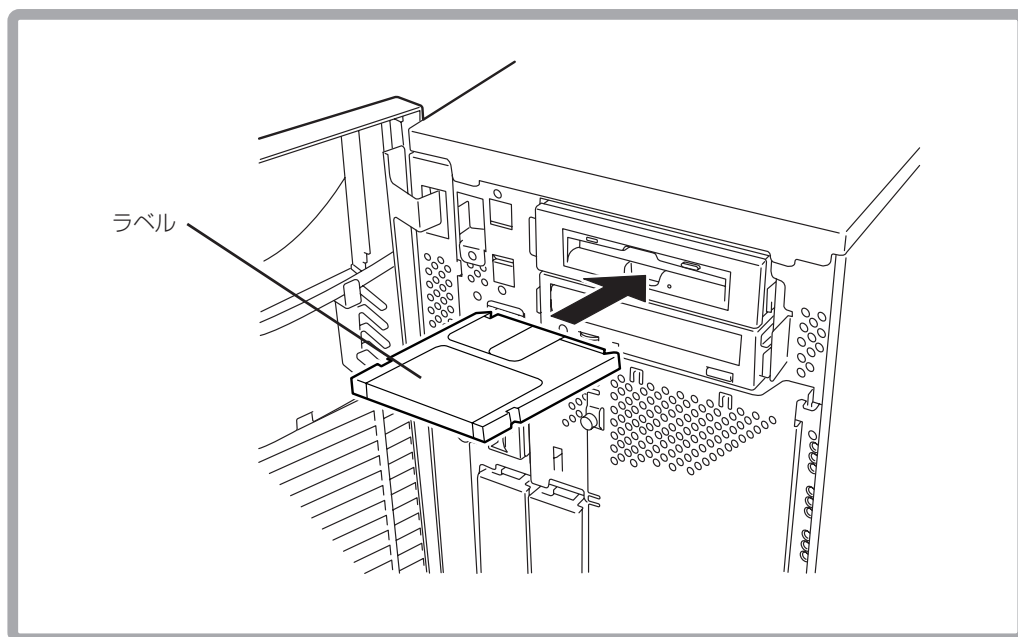
BUSYランプは、セットした光磁気ディスク内のデータのシーク中やフォーマット中、データのリード中/ライト中に緑色に点灯します。

光磁気ディスクのセット

次の手順に従って光磁気ディスクを本製品にセットします。光磁気ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については39ページをご覧ください。

- 光磁気ディスクはていねいに取り扱ってください。乱暴に取り扱うと、光磁気ディスクが破損してデータの一部、またはすべてを失うことがあります。
- うまく本製品にセットできないときは、無理な力を加えてセットしようとせず、いったん本製品から光磁気ディスクを取り出して、セットする方向や向きを確認してください。
- 本製品で使用できないディスク(3.5インチフロッピーディスクなど)をセットしないでください。本製品の故障の原因となります。
- 光磁気ディスクに貼り付けるラベルは、付属のラベルを使ってください。また、ラベルは正しく光磁気ディスクに貼り付けてください。異なるラベルを貼り付けたままセットしたり、ラベルがはがれかかった状態でセットしたりすると本製品の故障の原因となります。

- 1 本体装置の電源がONになっていることを確認する。
- 2 光磁気ディスクの表面(ラベルを貼り付けている面)を上側に向け、ラベル側が手前になるように持つ。
- 3 光磁気ディスクに示されている挿入方向マークに従って本製品のディスク挿入口にまっすぐに「カチッ」という音がするまで差し込む。



光磁気ディスクのイジェクト

次の手順に従って光磁気ディスクを本製品から取り出します。光磁気ディスクに関する説明や取り扱いに関する注意事項については39ページをご覧ください。

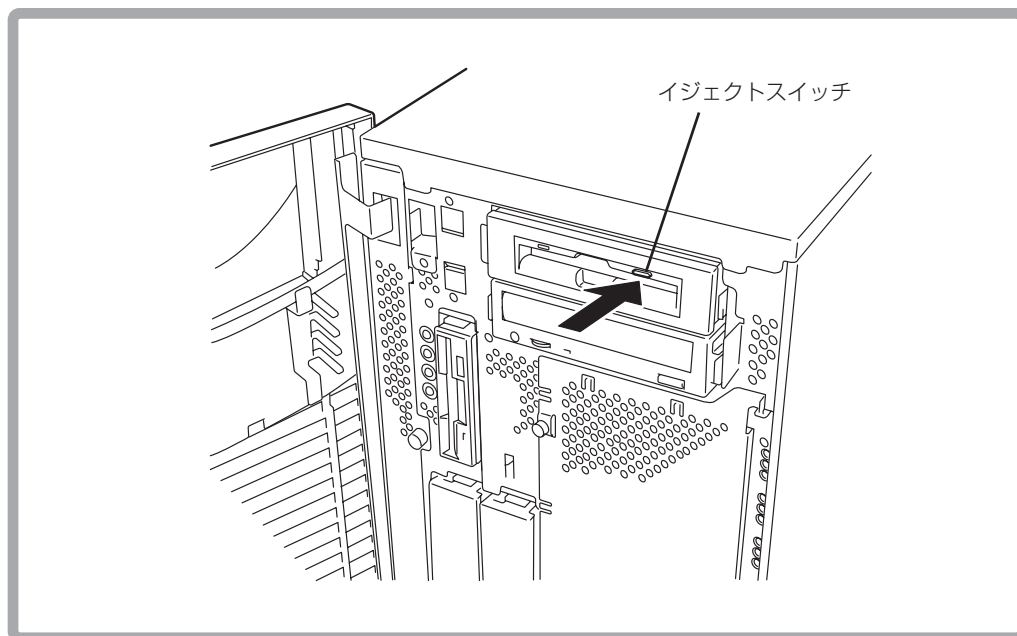
- 光磁気ディスクはていねいに取り扱ってください。乱暴に取り扱くと、光磁気ディスクが破損してデータの一部、またはすべてを失うことがあります。
- お使いになる環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバ、フォーマットソフトなど)によっては、光磁気ディスクを正しくイジェクトさせるために決められた手順を行う必要がある場合があります。詳細については、26ページを参照してください。
- 光磁気ディスクは本体装置の電源をOFFにする前に必ず取り出してください。光磁気ディスクをセットしたまま本体装置の電源をOFFにすると光磁気ディスク、または本製品が損傷するおそれがあります。
- BUSYランプが点灯している間はイジェクトボタンを押さないでください。

1 本体装置の電源がONになっていることを確認する。

2 BUSYランプが消灯していることを確認する。

3 イジェクトスイッチを押す。

光磁気ディスクが自動的にイジェクトされます。

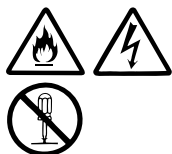


4 光磁気ディスクの端を持って、ゆっくりとていねいに本製品からまっすぐに取り出す。

光磁気ディスクは専用のケースに入れて、大切に保管してください。

光磁気ディスクの手動イジェクト

通常の方法で光磁気ディスクをイジェクトできなくなった場合のために、本製品に添付の「強制イジェクトピン」を使って、手動で排出することができます。



自分で分解・修理・改造はしない

本製品の分解や修理・改造は絶対にしないでください。本製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

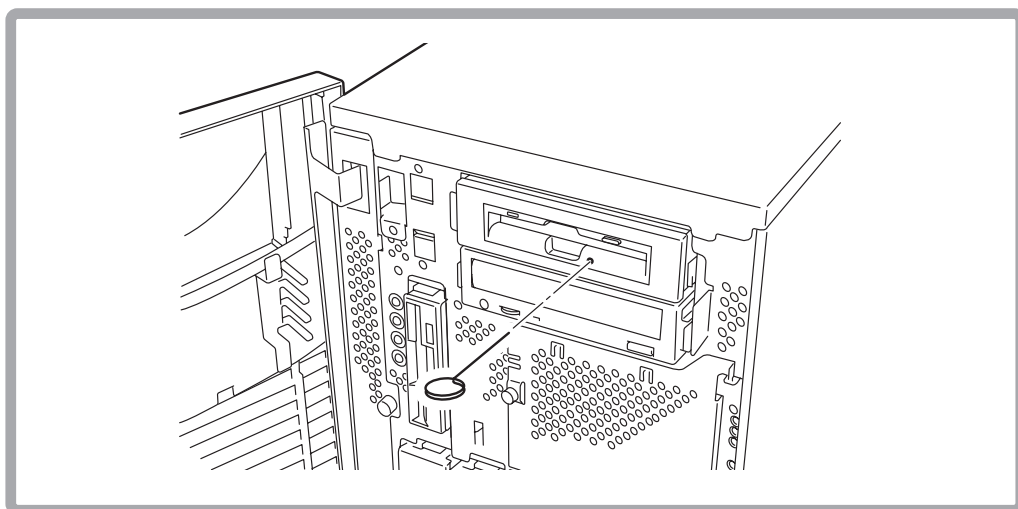
本製品でお客様が行える分解は次の作業のみです。次に記述する以外の分解は絶対にしないでください。

- ブラケットの取り外し/取り付け
- DCケーブル・インタフェースケーブルの取り付け/取り外し

- 光磁気ディスクが通常の方法でイジェクトできなくなったときにのみ、ここで示す方法を行ってください。正常にイジェクトできるときに手動でイジェクトすると故障の原因となります。
- 本体装置の電源がOFFの状態の手動イジェクトを行ってください。本体装置の電源がONの状態の手動イジェクトを行うと、光磁気ディスク内のデータの消失や本製品および本体装置の故障の原因となります。
- 本製品に添付の「強制イジェクトピン」を使って手動イジェクトを行ってください。本製品に添付の「強制イジェクトピン」以外を使用した場合、本製品の故障の原因となります。

- 1 本体装置の電源をOFFにして、しばらく待つ(約30秒)。
- 2 本製品前面にある手動排出孔に添付の「強制イジェクトピン」を差し込み、水平に強く押す。

光磁気ディスクがイジェクトされます。



- 3 光磁気ディスクの端を持って、ゆっくりとていねいに本製品から取り出す。
光磁気ディスクは専用のケースに入れて、大切に保管してください。

取り扱い上の注意 ～大切なデータを守るために～

光磁気ディスクも他の記録媒体と同じようにデータの保全性が100%保証されているものではありません。光磁気ディスクに保存した大切なデータをメディアの欠陥やハードウェア的な誤動作などによる消失や破壊などの問題を回避するためにも次のような方法でデータを取り扱うことをお勧めします。

データのバックアップ

ここでは、万一の場合に備えてのデータのバックアップ方法について説明します。

正副2枚の光磁気ディスクにバックアップ

重要なデータまたはプログラムなどを保存する場合には、正副2枚にバックアップすることをお勧めします。

こうしておけば、一方の光磁気ディスクがゴミまたは塵埃などによってリードエラーを起こしても、もう一方の光磁気ディスクから復旧でき大切なデータやプログラムの消失を防げます。

データの3世代管理について

ディスク上のデータをバックアップする場合、バックアップされたデータの3世代管理をお勧めします。

これは光磁気ディスクを3枚(A、B、C)使用して、1日目はディスクAにデータをバックアップしたならば、2日目にはディスクBにバックアップし、3日目にはディスクCにバックアップし、A→B→Cと順番にデータをバックアップしていくものです。

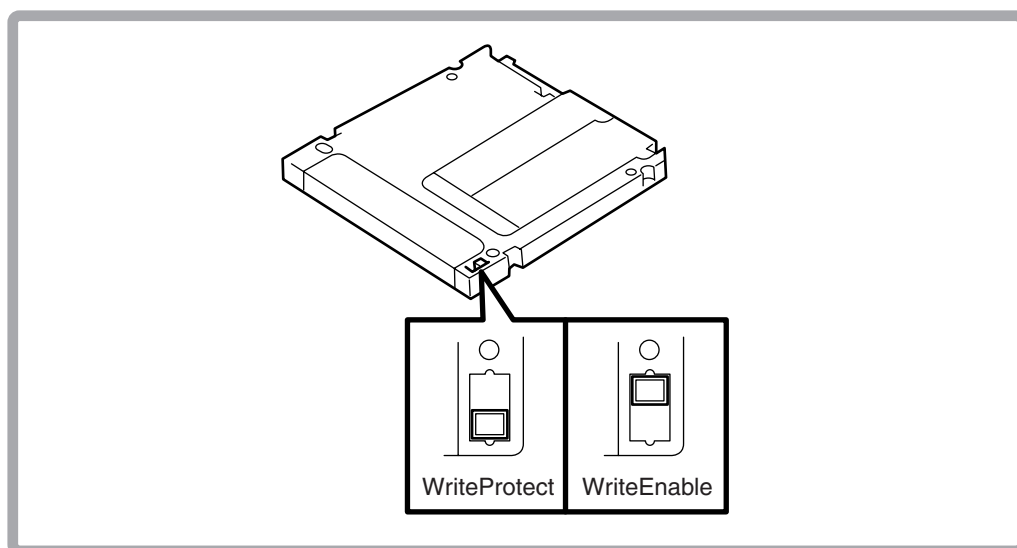
こうしておけば、ディスクCがリードエラーを起こしたとしてもディスクBのデータを使用すればデータは復旧できます。また、ディスクBがリードエラーを起こしたとしてもディスクAのデータを使用することで大切なデータは復旧できます。

ディスクのライトプロテクト

重要なファイルが保存されている光磁気ディスクをセットしているときは、ライトプロテクトをしてください。災害や停電による突然の電源OFFなど万一のときにもディスクの中のファイルは保護されます。また、誤操作によるデータの消失を防ぐことができます。

光磁気ディスクには、データを不用意に消去しないよう、ライトプロテクトスイッチがついています。光磁気ディスクを本製品にセットする前に、光磁気ディスク底面のライトプロテクトスイッチの状態を確認してください(次ページの図を参照してください)。ライトプロテクトスイッチをライトプロテクト(WRITE PROTECT)側にセットするとディスクにデータを書き込めない状態になります。書き込みができる状態にするには、スイッチをライトイネーブル(WRITE ENABLE)側にセットします。

ライトプロテクトスイッチは「カチッ」と音がするまで確実にスライドしてください。また、スイッチを不安定な位置にしたまま使用しないでください。



日常の保守(クリーニング)

本製品、または光磁気ディスクを長期間使用していると、本製品のリード/ライトヘッドや光磁気ディスクのデータ面にはほこりや汚れが付着してデータを正しくリード/ライトできなくなることがあります。

このような問題を起こす前に、定期的なクリーニング(リード/ライトヘッドの場合は1~2か月に1度、光磁気ディスクの場合は使用時間300時間毎、または1~2か月に1度)をすることをお勧めします。

本製品のリード/ライトヘッドのクリーニングには、添付のクリーナディスクを使用します。光磁気ディスクのデータ面のクリーニングには、「光磁気ディスククリーナ」をお使いください。

オプションデバイスの活用

バックアップデバイスは光磁気ディスクだけとは限りません。別売の磁気テープドライブなどを利用するのも1つの方法です。

また、ディスクアレイコントローラや無停電電源装置などを使って本体装置やシステム全体の冗長性の向上をはかるのも重要な手だての1つです。これらのバックアップシステムの構築についてはご契約の保守サービス会社、またはお買い求めの販売店までお問い合わせください。

第3章 クリーニング・本製品の輸送

本製品、および光磁気ディスクを安全に、かつ正常に使用するため、定期的に本製品のクリーニングを行ってください。また、本製品を輸送するときは必ずここで示す手順に従ってください。(光磁気ディスクの取り扱いについては39ページでも説明しています。ご覧ください。)

本製品のクリーニング

本製品のクリーニングには、本製品外観のクリーニングと本製品のリード/ライトヘッドのクリーニングがあります。

本製品のクリーニング

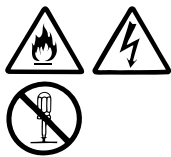
光磁気ディスクの挿入口などにはほこりが溜まらないよう、定期的に本製品のまわりをクリーニングしてください。

ヘッドのクリーニング

長期間、本製品を使用していると、ゴミやチリなどが本製品のリード/ライトヘッドに付着してリード/ライトエラーを起こすことがあります。本製品に添付のクリーナディスクを使用して定期的にリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。

クリーニングの周期は設置環境により異なりますが、1~2か月に1度程度を目安にクリーニングしてください。

- 本製品に添付されているクリーナディスク以外のクリーナを使用しないでください。誤動作、および故障の原因となります。
- クリーナディスクを分解、または改造、修理しないでください。誤動作、および故障の原因となります。
- クリーナディスクを長時間、本製品内に放置しないでください。



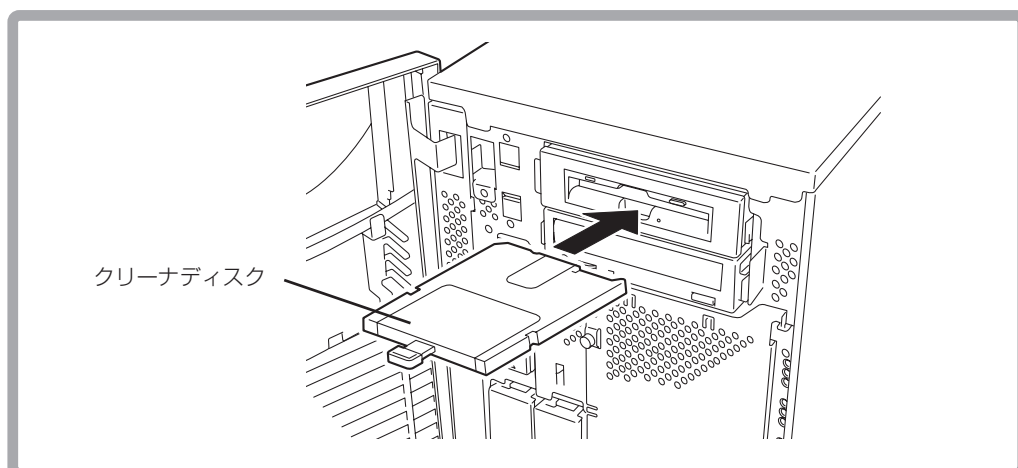
自分で分解・修理・改造はしない

本製品の分解や修理・改造は絶対にしないでください。本製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

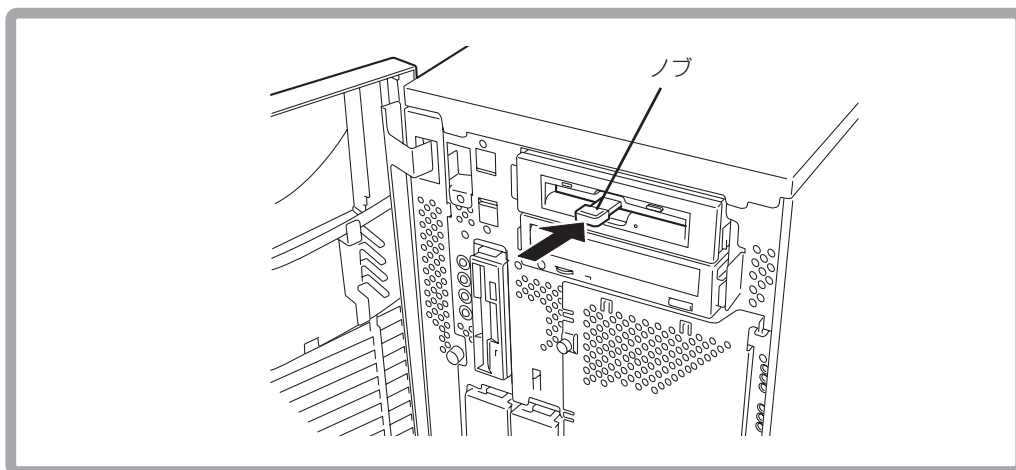
本製品でお客様が行える分解は次の作業のみです。次に記述する以外の分解は絶対にしないでください。

- ブラケットの取り外し/取り付け
- DCケーブル・インタフェースケーブルの取り付け/取り外し

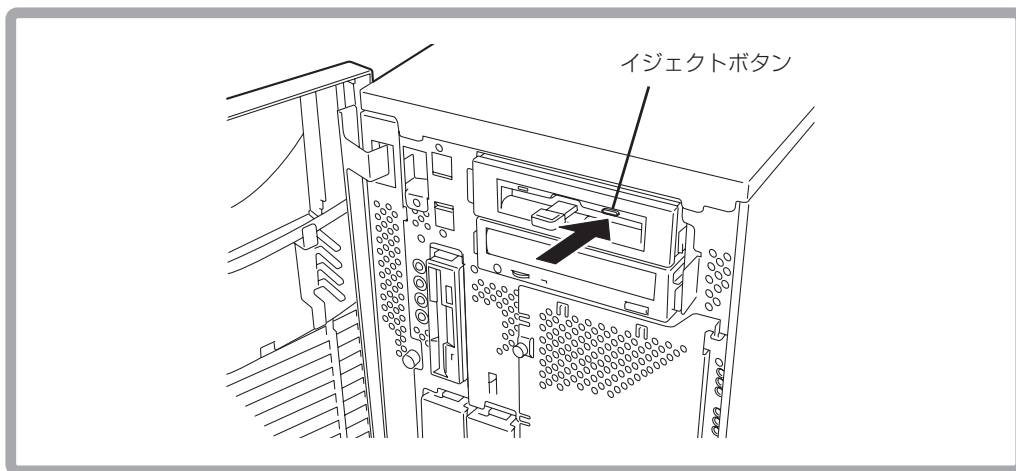
- 1 本製品の電源をONにして、クリーナディスクを「カチッ」という音がするまで押し込む。



- 2 クリーナディスクのノブを軽く10回押す。



- 3 イジェクトボタンを押して、クリーナディスクを取り出す。



- 4 クリーナディスクのラベルに使用回数のチェックを記入する。
使用環境によりませんが、クリーナディスクは約100回使用できます。

光磁気ディスクのクリーニング

長期間、同じ光磁気ディスクを使用すると、光磁気ディスクのデータ面にゴミやチリ、汚れが付着してデータのリード／ライトが正しくできなくなることがあります。

「光磁気ディスククリーナ」を使って光磁気ディスクのデータ面をクリーニングすることをお勧めします。

クリーニングの周期は設置環境により異なりますが、使用時間300時間毎、または1～2か月に1度程度を目安にクリーニングしてください。

本製品の移動・輸送について

本製品を輸送するときは、必ず次の手順に従ってください。

注意



電源がONのまま取り付け・取り外しをしない

本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺装置との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをコンセントから抜いてください。電源コードがコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電をするおそれがあります。

- 1 本製品から光磁気ディスクを取り出し、光磁気ディスクを添付のプラスチック保護ケースに収納し、保管する。

光磁気ディスクに過度の力が加わらないよう注意してください。

- 2 本体装置のPOWERスイッチをOFFにして、システムを終了した後、電源プラグをコンセントから抜く。
- 3 本体装置のカバー類を取り外す。
- 4 本製品に接続しているSCSIケーブルおよびDC電源ケーブルを取り外す。

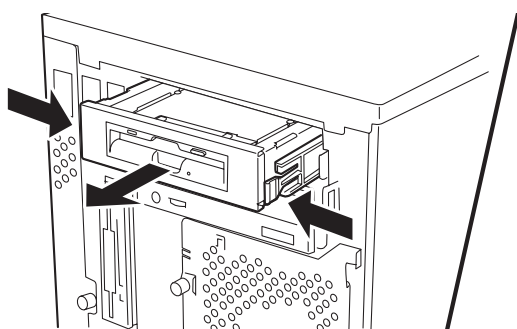
5 本製品を本体装置から取り外す。

ここでは、例として5.25インチデバイスベイに取り付けている場合について説明します。3.5インチデバイスベイに取り付けている場合は、取り付けの逆の手順で取り外してください。

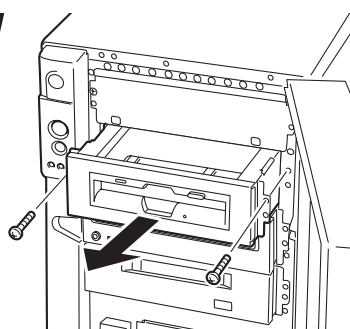
本体装置に本製品をラッチングレールで取り付けられている場合は、ロックまたはネジを外して本製品を取り外してください。

本体装置に本製品をネジで直付けしている場合は、本製品の固定ネジを外して本製品を取り外してください。取り外し方法の詳細については、本体装置に添付の説明書を参照してください。

ラッチングレールを使用の場合

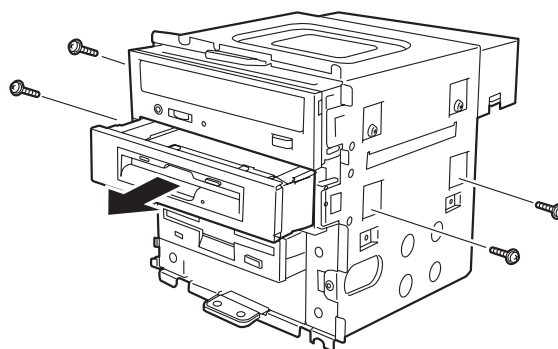


ロックされている場合



ネジで固定の場合

ネジで直付けの場合




6 ラッチングレールを本製品から取り外す。

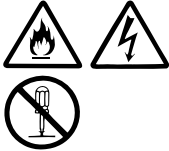
本体装置に本製品をネジで直付けしている場合は、本手順は不要ですので手順7に進んでください。

7 本製品が入っていた箱に本製品を入れて、添付の緩衝材で本製品を固定する。

第4章 障害処理チャート

本製品が思うように動かないときはこの章で示す障害処理チャートを参照して障害の原因を確認してください。


警告



自分で分解・修理・改造はしない

本製品の分解や修理・改造は絶対にしないでください。本製品が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。

本製品でお客様が行える分解は次の作業のみです。次に記述する以外の分解は絶対にしないでください。

- ブラケットの取り外し/取り付け
- DCケーブル・インタフェースケーブルの取り付け/取り外し

障害処理チャート(1/2)

| 内容 | 原因 | 対処方法 |
|---------------------------|-------------------------------|---|
| 動作しない | 本体装置の電源がOFFになっている | 本体装置の電源をON (POWERランプ点灯) にしてください。 |
| | DC電源ケーブルが接続されていない | 本製品に本体装置の電源ユニットから出ている電源ケーブルを接続してください。 |
| 光磁気ディスクをセットできない | ディスクの挿入方向が間違っている | ディスクを正しい向きにして差し込んでください。 |
| | すでに別のディスクがセットされている | セットしているディスクをイジェクトしてからセットしてください。 |
| 本体装置から光磁気ディスク(本製品)を認識できない | SCSIインタフェースケーブルが接続されていない | 本製品と本体装置内部のSCSIコネクタ(またはSCSIコントローラボードのSCSIコネクタ)をSCSIケーブルで接続してください。 |
| | SCSIインタフェースケーブルが破損している | SCSIケーブルを交換してください。SCSIケーブルは、本体装置内部のSCSIケーブルをお使いください。 |
| | SCSI IDが他のSCSI機器と重複している | 同じSCSIケーブル接続上(SCSIバス上)のSCSI機器はそれぞれが個別のSCSI IDでなければいけません。接続している機器のSCSI IDを確認して、重複している場合は本製品またはその他のSCSI機器のSCSI IDを変更してください。 |
| | 終端設定がされていない | SCSIケーブル接続で最遠端に位置するSCSI機器に終端コネクタを取り付けるか、終端設定をしてください。 本製品は終端設定ができません(OFFのまま、切り替えることはできません)。本製品は、SCSIケーブル接続で途中に位置するところで接続してください。 |
| | ディップスイッチの設定を間違えている | 本製品にあるディップスイッチを正しく設定してください。SCSI IDを設定するスイッチ以外は出荷時の設定にしてください。 |
| | インストールしているソフトウェア(ドライバ)を間違えている | 正しいデバイスドライバをインストールしてください。また、オペレーティングシステムと本体装置によっては、デバイスドライバのロード順に制限がある場合があります。それぞれのマニュアルを参照してください。 |

障害処理チャート(2/2)

| 内 容 | 原 因 | 対処方法 |
|--|---|---|
| イジェクトスイッチを押しても光磁気ディスクがイジェクトされない | BUSYランプが点灯している | BUSYランプが消灯してからイジェクトスイッチを押してください。 |
| | 使用している環境(コンピュータやオペレーティングシステム、デバイスドライバなど)によってイジェクトボタンの機能が制限されている | 使用している環境によっては、イジェクトスイッチを押してもイジェクトできない場合があります。それぞれのマニュアルを参照して手順に従った方法でディスクをイジェクトしてください。(本体装置自身のトラブルにより排出できない場合も考えられます。この場合には、いったん本体装置の電源をOFFにして、手動イジェクトでディスクをイジェクトしてください。) |
| データのリード(読み取り)ができない | 他のコンピュータやオペレーティングシステムで使用していた光磁気ディスクをセットしている | 別の装置で書き込んだ光磁気ディスクや、使用している環境に合わないフォーマット形式の光磁気ディスクのデータは読み取ることができません。本製品および本体装置の仕様や環境に合った光磁気ディスクを使用してください。 |
| | 急激な温度変化を与えた | 急激な温度変化のために光磁気ディスクや本製品、本体装置が結露していることが考えられます。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってから使用してください。 |
| | ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドが汚れている | ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。 |
| データのライト(書き込み)ができない | 光磁気ディスクがライトプロテクトされている | 光磁気ディスクのライトプロテクトスイッチをライトイネーブル(WRITE ENABLE)側にセットしてください。 |
| | 光磁気ディスクがフォーマットされていない。または、本製品や本体装置の環境に合っていない形式でフォーマットされている | 光磁気ディスクを本製品や本体装置の環境に合った形式でフォーマットしてください。(記録しているデータが必要な場合は、別のディスクを使用してください。) |
| | 使用している環境温度が低すぎる | 使用環境温度が5℃以下の場合には、リードできてもライトできないことがあります。使用環境温度を5℃以上にしてから使用してください。 |
| | 急激な温度変化を与えた | 急激な温度変化のために光磁気ディスクや本製品、本体装置が結露していることが考えられます。急激な温度変化があった場合は、1時間以上待ってから使用してください。 |
| | ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドが汚れている | ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。 |
| フォーマットに異常に時間がかかる | 物理フォーマットをしている | 物理フォーマットは論理フォーマットに比べ時間がかかります。しばらくお待ちください。 |
| | ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドが汚れている | ディスク、または本製品のリード/ライトヘッドをクリーニングしてください。 |
| 「デバイスはタイムアウト期間内に応答しませんでした。」というイベントログが登録される | パワーセーブモード状態でデバイスにアクセスした。 | 動作上、問題はありません。 |

付録A 仕様

| | |
|-----------------|---|
| データ転送速度 | 最大20MB/秒(SCSIバス上) [同期転送サポート] |
| 平均シーク時間 | 28ms |
| 平均回転待時間 | 6.1ms |
| SCSIバス幅 | 8 bit |
| 外形寸法 | |
| [5インチベイブラケット含む] | 148.0mm(幅)×159.0mm(奥行き)×41.7mm(高さ) |
| [MO装置本体] | 101.6mm(幅)×151.0mm(奥行き)×25.4mm(高さ) |
| 質量 | 1kg以下 |
| 電源 | DC+5V: 最大2.0A、平均1.4A |
| 消費電力(平均) | |
| [パワーセーブ時] | 1.0W |
| [ランダムライト時] | 7.0W |
| 環境条件 | |
| [動作時] | 周囲温度 5℃～45℃(温度変化率: 10℃/時間) 相対湿度 10%～85%RH 最大湿球温度 29℃(結露しないこと) |
| [非動作時] | 周囲温度 -20℃～60℃ 相対湿度 10%～90%RH |

付録B 光磁気ディスクについて

本製品で使用できる光磁気ディスクは、3.5型(直径9センチ)の光磁気ディスクです。購入されたときにはプラスチック製のケースに収められています。

光磁気ディスクの取り扱い上の注意

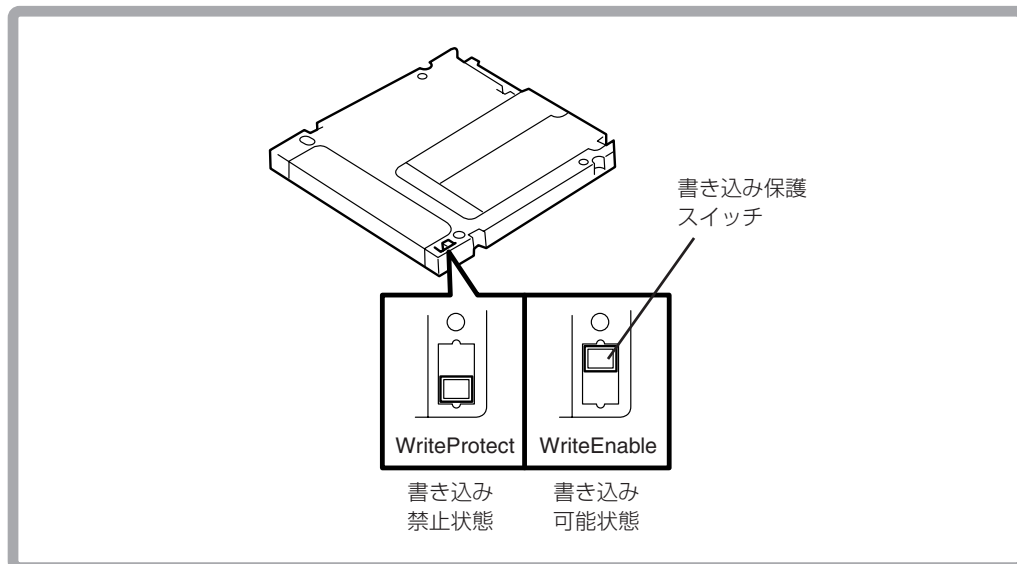
記録済みまたは記録されていない光磁気ディスクを長持ちさせるために、次の点に注意して光磁気ディスクを取り扱ってください。

- 光磁気ディスクを落としたりたたいたりしないでください。光磁気ディスクが破損するおそれがあります。また、破損した光磁気ディスクを本製品にセットすると、本製品自身も損傷するおそれがあります。
- 光磁気ディスクを、コンピュータのモニタ、モータ、およびビデオまたはX線を使用する機器など、電磁波による電波障害の発生源の近くには置かないでください。光磁気ディスクのデータが損なわれることがあります。
- 光磁気ディスクは直射日光を避け、ヒータその他の熱源から遠ざけて保管してください。
- 光磁気ディスクは、室内温度 -10°C ～ 50°C 、相対湿度10%～90%のほこりのない場所で保管してください。光磁気ディスクを使用するときは、温度勾配 $15^{\circ}\text{C}/\text{時間}$ (1時間に 15°C 以内の温度変化)で室温(温度が 5°C ～ 35°C 、湿度が10%～85%)に戻してから使用してください。
- 光磁気ディスクは、常に添付のプラスチック保護ケースに収納し、ポリ袋に入れて密封してください。
- ラベルは、光磁気ディスク前面にある指定場所以外の場所に貼らないでください。
- 光磁気ディスクやシャッター部分を強く押さえたり、シャッターを手で開けたりしないでください。
- 光磁気ディスクのデータ面を手やもので触れないでください。
- 飲食や喫煙をしながらの取り扱いは避けてください。
- 光磁気ディスクは、専用のプラスチック保護ケースに入れて水平、または垂直な状態にして保管してください。
- 光磁気ディスクの上にものを置かないでください。
- 本製品に挿入するときは、ていねいに取り扱ってください。

光磁気ディスクのライトプロテクトスイッチ

光磁気ディスクには、データを不用意に消去しないよう、ライトプロテクトスイッチがついています。

ライトプロテクトスイッチをライトプロテクト(WRITE PROTECT)側にセットするとディスクにデータを書き込めない状態になります。書き込みができる状態にするには、スイッチをライトイネーブル(WRITE ENABLE)側にセットします。

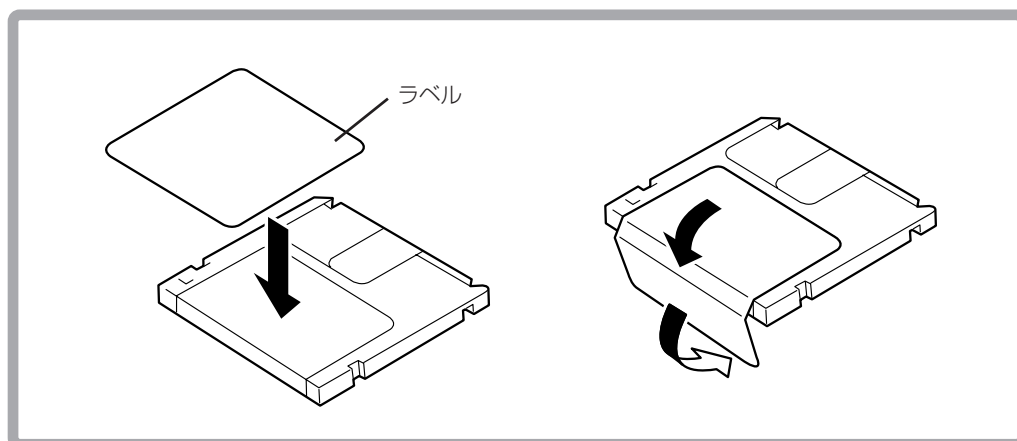


ライトプロテクトスイッチは「カチッ」という音がするまで確実にスライドしてください。また、スイッチを不安定な位置にしたまま使用しないでください。

ラベルの取り付け位置

ラベルは、光磁気ディスクの上面に取り付けます。光磁気ディスクと記録されたデータ内容を一目で確認することができますので、必ずデータの内容を添付のラベルに記載してから光磁気ディスクに貼り付けてください。

ラベルを貼り付けた後に、ボールペンなどペン先が硬いものでラベルに書き込まないでください。



付録C フォーマットに関する注意事項

光磁気ディスクをフォーマットするときは、次の点について注意してください。

光磁気ディスクのフォーマットについて

- ブランクメディア(未フォーマットの光磁気ディスク)を初めてお使いになる場合、ディスクアドミニストレータを使用して領域の作成、およびフォーマットをしてください。
- Windows 98/95/2000/XPで使用していた光磁気ディスクをWindows NT上で再フォーマットする場合、ディスクアドミニストレータを使用して一度領域の開放をすることが必要となる場合があります。Windows 98/95/2000/XPで使用していた光磁気ディスクの再フォーマットが失敗する場合、一度領域の開放・再作成を行った後、再フォーマットをしてください。また、光磁気ディスクを本製品にセットした後、フォーマットする前に、一度、エクスプローラ等で光磁気ディスクにアクセスしてください。直接、アドミニストレータでフォーマットしようとする、本体装置の再起動を要求されることがあります。

N8151-25B

内蔵3.5" MO

ユーザーズガイド

2004年9月 初版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

TEL (03) 3454-1111 (大代表)

乱丁・落丁はお取り替えします。

© NEC Corporation 2004

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

NEC

N8151-25B 内蔵3.5" MO

ユーザーズガイド

856-850567-A



* 8 5 6 - 8 5 0 5 6 7 - A *